

令和6年度 東京都立芝商業高等学校 学校経営報告

東京都立芝商業高等学校長 大 林 誠

創立100年を迎えた本校は、「地域や企業との連携を通して“体験と経験から学ぼう”」をスローガンに掲げ、校内における学習活動の活性化を図りながら、近隣の企業との連携を計画的に実行しつつ①中学校での学びの復習と基礎学力の定着を促す学習の充実、②オンライン学習に対応した工夫を凝らした授業の展開、③地域や多くの企業等と連携したビジネスを体験的・実践的に学ぶ場の提供、④資格取得や学習成果の発表を奨励することによって生徒の自己肯定感を高め、達成感が感じられる取組を展開してきた。

本年度は昨年度以上に地域連携事業に力を入れ、福井県池田町との連携に際し、訪問や物品販売、オンラインによる連携交流を実施する「いけだ部」、竹芝タウンデザインとの連携で竹芝干潟の自然観察および海洋性生体の観察、環境保全活動を実践する「ひがた部」を新たに設け、生徒が主体となり今まで以上に活発に取り組んだ。

その他部活動では女子バスケットボール部が日頃の練習の成果を上げることができ、夏のインターハイ予選で東京都ベスト16に入ることができ、また、商業高校大会では優勝を修めた。他には男子バスケットボール部、硬式テニス部、軟式テニス部、バドミントン部などが商業高校大会で一定の成績を修めることができた。一方、資格取得率や基礎学力が年々低下している現状もあり、授業形態の見直しや習熟度授業の授業内容の見直し、生徒の学習に対するモチベーションを向上させるような学校全体での取り組みについて今後検討していく。

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

	取 組	自己評価
学校経営	(1) 中高連携、企業連携等外部人材のもつ多様な教育力を有効かつ継続的に活用し取組んだ。 (2) 生徒等の個人情報について、規定を遵守し職員相互による点検・確認等を徹底し、無事故を達成した。 (3) 働き方改革を推進し、長期休業中の在宅勤務の推奨など校務改善に取り組んだ。	(1) 多くの授業で外部講師を招いた特別授業を展開し将来に活用できるビジネス活動の奥深さを伝えることができた。 (2) 悉皆による校内研修を定期的 to 実施し、日頃からの個人情報の管理を徹底した。 (3) 安全衛生委員会及び産業医を活用して労働環境を整備し、校務改善に取り組んだ。
学習指導	(4) 一人1台端末の積極的な活用やデジタル機器の効果的な活用等により基礎学力の定着を図る。 (5) 教員のICT活用スキルの向上のため、ICT支援員の指導の下、計画的に研修を実施した。 (6) 観点別評価をさらに理解度を図るため、教育課程委員会を定期的 to 実施し、評価分析及び評価上の課題の共有を図った。	(4) 一人1台端末の活用により、学習への意欲を高め、主体的に学習に取り組んだ。 (5) ICT機器を用いた教員の指導スキルの向上により指導の幅を広げ、授業の効率化を図る。 (6) 観点別評価に関する教員研修を実施し、各教科の評価改善に向けての課題を教員間で共有した。
生活指導・進路指導	(7) 心身ともに健やかな成長を促進するため、SC等と連携し、安心して生活できる環境を構築した。 (8) 時代に即した指導の在り方を検討し、生徒が主体性をもって行動できるよう校内環境を整備した。 (9) さまざまな進路行事や進路指導を通して、組織的・計画的に実施し、進路活動の支援と充実を図る。 (10) 国際ロータリーと協働したインターンシップ、地域・企業との連携により職業観や勤労観を育成。	(7) 特別支援委員会を活用して要配慮生徒への早期対応や通級指導を実施し個別支援体制を構築した。 (8) 校則の自主点検を行い、生徒代表、保護者代表を交えて校則見直しの場を設けた。 (9) 組織的・系統的な進路指導やキャリア教育推進に向けて、進路活動の支援と充実を図った。 (10) 1年生対象にインターンシップを実施し、実地の職業体験を通して職業観を醸成した。
特別活動・その他	(11) 集団生活での規律ある行動力育成のため、校内での教育活動が連動するように創意工夫する。 (12) 共生社会の一員としての自覚を深めるため、多様な人々との交流活動を実施した。 (13) 地域と連携した体験的・実践的な防災教育を企業と連携し災害対応力を強化。 (14) 自律経営推進予算執行計画に基づき学校の健全化を図り、適切に執行し、教育環境の整備等に取り組む。	(13) 委員会や役割分担など生徒が主体的に計画および実行し、組織的に運営することができた。 (14) 1年生対象にがん教育を実施し、生命尊重の精神や健康の大切さを伝えることができた。 (15) 港区総合支所、芝消防署と連携して防災訓練を実施。今後さらなる取組の充実を図る。 (16) 予算の組み替えにより必要な時に必要な予算執行をタイムリーに実施することができた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

取 組	自己評価
①竹芝地区各企業をはじめや福井県池田町等と連携し、実践的・体験的な学びの場を提供。 ②「ビジネス基礎」「ビジネスアイデア」「課題研究」の充実・改善を図り、創造的、実践的な資質を育成。 ③一人1台端末や学校図書館の効果的活用により、自学自習時間及び読書時間の増加を図った。 ④生命を尊重する視点に立ち、予見・予防型の生活指導により体罰やいじめのない環境を構築。 ⑤ビジネス GP を活用して資格取得を励行し、成果発表を通じて、進路実現や挑戦する意欲の醸成を図る。 ⑥T G Gや英国研修への参加等を促進し、豊かな国際感覚等を醸成して国際人としての素養を育成。 ⑦校内外でさまざまな交流活動を展開して人間関係を構築させ、協調性やコミュニケーション能力を育成。	①竹芝地区各企業との連携を図り、様々な活動に取り組んだ。福井県池田町に生徒を年2回派遣し交流した。 ②今後の課題を整理し、企業等と連携した探究活動の充実と学年連携の在り方など改善・充実を図った。 ③関心をもった事柄を自ら調べ、知識を深めることで、主体性をもった学習を推進し、理解度や意欲を向上。 ④S Cとの連携により予見・予防型の生徒支援体制を構築。特にS N Sによるいじめに備え指導体制を充実。 ⑤資格取得の励行を図るとともに、上級資格へ挑戦する生徒の指導体制や希望進路実現に向けた体制を整備。 ⑥1学年でT G G研修を実施、専門高校生海外派遣研修を通じて異文化理解に関する学習を充実させた。 ⑦生徒が主体的に発表する場や地域・企業との連携の場を充実させ、コミュニケーションスキルを育成。

(3) 数値目標の達成状況

	項 目	目 標 ※()は昨年度	実 績
入学時	A 推薦の基づく選抜の倍率	1. 5倍以上 (1. 20倍)	1. 20倍
	B 学力検査に基づく選抜の倍率	1. 0倍以上 (0. 96倍)	1. 01倍
在学时	C 自律経営推進予算の執行率	100% (89. 3%)	91. 2%
	D 入学満足度	80%以上 (71. 9%)	73. 5%
	E 教育相談満足度	80%以上 (87. 2%)	77. 2%
	F 家庭等学習時間30分未満生徒	30%以下 (56. 6%)	54. 7%
	G 不読率	30%以下 (55. 4%)	56. 2%
	H 進路指導満足度	100% (90. 7%)	93. 4%
	I 全商検定1級合格者	50名以上 (36名)	28名
	J 部活動加入率	100% (88. 3%)	88. 3%
卒業時	K 進路決定率	100% (96. 7%)	98. 5%

2 次年度以降の課題と対応策

課 題	取 組 例
①新学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育活動の充実・発展 ②連携事業の充実・発展 ③学習指導の改善・充実 ④生活指導の改善・充実 ⑤進路指導の充実 ⑥広報募集活動の改善・充実 ⑦ワークライフバランスの推進	①教科横断的な学習の推進、観点別評価の充実、採点・分析システムの活用による事後指導の充実。 ②実社会での課題発見・課題解決に向けた視点から、地域、産業界、大学との連携の推進。 ③一人1台端末を活用した学習モデルの構築、I C T機器の活用による授業展開の改善・充実を図る。 ④生徒や保護者代表と校則の共通理解の場を設け、生徒の進路先を見越した生活指導について理解を図る。 ⑤生徒の希望進路に対応した丁寧な指導と指定校の推薦基準に適応した系統的な学習指導の充実を図る。 ⑥学校ホームページを中心に出席授業などを積極的に実施して本校の教育活動を積極的に広報する。 ⑦在校時間把握、超勤者指導・相談体制構築、産業界との連携、年休15日以上及び夏休100%を推進する。

